

(川中先生のブログ) なぜ医者にな

2014年06月02日 06時24分23秒



以前、中学の社会実習で私の医院に来た生徒に聞かれました。『 何で医者になったんですか？ 』

成りたかったし、成れたからなったんでしょうね。

元々、病気や身体について興味がありました。中学の保健体育のテキストの病気について書いている個所を読んでいたら、すべて自分に当てはまるように思えて心配で、もっと病気について詳しく知りたいと思いました。

母が看護師免許を持っていましたが、子供の頃から『 医者は良い仕事よ、やり甲斐のある仕事だし、収入も良いし、人にも尊敬される。ただ仕事はきついし、一生勉強しないといけんし、勉強が嫌いなあんたには無理じゃけどね。 』と母に

よく言われました。そういう母の繰り言もキッカケの一つかもしれません。

父は食料品の卸し問屋をしていましたが、跡を継いでも展望がなさそうでした。かといって、性格的に公務員や会社員は不向きだと思い、医者を目指しました。何とか医者になれて、私はよかったと思いますが、果たしてこれが世間の皆さんに良かったのかどうか？

シュバイツァー博士のようになりたいとか、僻地診療に生きようとか、病気に悩む人を助けたいと言うような、そういう高尚な理想を持ったことは無かったですが、それでも、医者になることより、どんな医者になるかが大事だ、というのは知っていました。

卒後40年、大学のレジデント、大学の講師、僻地の中核病院の医長、民間病院の勤務医、そして開業医、医者と言っても色々な立場で診療して来ましたし、診療内容も対象も随分変わってきました。背負っている看板が立派だと世間も信じてくれますが、今のような開業医で患者さんの信頼をつかむのが一番難しいです。